

区分	年齢	おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設(仮称)整備 についてのご意見等(自由記載)	回答案
		<p>【おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設(仮称)整備に係る考え方】</p>	<p>いただいたご意見への回答にあたりまして、まず大田市としての考え方について記載させていただきます。</p> <p>1. 大田市の既存施設の課題 ① 老朽化(ハード要件からの必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田保育園は耐震性がない</li> <li>・子ども家庭総合支援拠点には、プライバシーに配慮した専用の相談室がない。</li> <li>・母子健康包括支援センターは専用の相談室が1階の奥にあり、気軽に相談に来にくい。</li> <li>・耐震性のない現市庁舎の中に設置している。</li> <li>・仁摩保健センターは、地盤沈下による床の傾斜が発生している。</li> <li>・これらは行政機能として必要であり、建て替えが必要。</li> </ul> <p>1. 大田市の既存施設の課題 ② 不十分な対応(ソフト面の拡充の必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の子育て支援センターは、土日祝に終日開設していない。</li> <li>・小学生の保護者の学校以外の相談の受け皿となっていない。</li> </ul> <p>2. 施設機能(子育てサービスの充実のためできていない部分を補完する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てのための総合支援拠点(新施設)」では4つの機能を想定。</li> </ul> <p>① 「幼保連携型認定こども園」、② 「基幹子育て支援センター」、③ 「こども家庭センター」 ④ 「保健センター」</p> <p>点在していた施設や関連部署間の有機的な連携を図り、質の高いサービスを提供する。</p> <p>【複合化のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の一元化</li> <li>・切れ目のないスムーズな連携による支援が受けられる</li> <li>・幅広い年齢に対応した子育て支援ができる</li> <li>・多面的できめ細やかな支援が可能</li> </ul> <p>3. 行政課題(少子・高齢化からの必要性)</p> <p>(1) 少子高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年に201人であった出生数は、2023年には159人に減少。</li> <li>・市の活力の低下は避けられない。</li> <li>・女性や若者の定住・流入により、人口の減少に歯止めをかけることが重要課題。</li> <li>・市民が安心して暮らせる大田市とするために、将来に明るい希望がもてる地域にする必要がある。</li> </ul> <p>(2) 子育て世帯の孤立化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年国勢調査で、当市の核家族世帯は7,325世帯。世帯構成に占める核家族の割合は高い。</li> <li>・子育て世帯の孤立化が進んだ現在の状況において、きめ細かい支援を行う核となる施設が必要。</li> </ul> <p>◆主な役割(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の中心的役割を担う</li> <li>・気軽に訪れることが出来る遊戯室を設けることで、悩み相談へのアクセスを容易にし、積極的支援が必要な対象のスクリーニングを行う</li> <li>・各未就学児施設と小学校の間において、年長から1年生までの架け橋期の連携を充実させる</li> </ul> <p>4. 建設場所の選定(大田市駅周辺を選定した理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地開発基金ですすでに所有している土地の有効活用が図ることが出来る</li> <li>・県央保健所、あすてらす、大田警察署などの連携が図ることが出来る</li> <li>・交通機関の面からも利便性は高い</li> <li>・土地区画整理事業対象エリア内に建設することで都市構造再編集中支援事業の活用が見込める</li> </ul> <p>5. 財源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業エリア内に、都市再生整備計画期間内に整備することで、有利な財源である「都市構造再編集中支援事業補助金(補助率2分の1)」</li> <li>・市の負担部分について、過疎対策事業債を活用し負担を軽減する</li> </ul> <p>以上の5点から「子育てに希望が持てるまちづくりの拠点とする」ための拠点施設整備を進めます。 また、県内他市等においても同様の施設が整備されており、大田市においても必要な施設であると考えています。</p>
<p>グーグルフォーム意見①</p>	<p>60代以上</p>	<p>本施設の性質から、保健や医療のサービスとの連携が不可欠と思われる。その観点からすれば、大田市立病院の隣接に設置する方が良いのではとの疑問が生じます。いかがか？</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>おおだ子育てに係る総合支援拠点施設(仮称)の建設予定地を区画整理事業対象エリア内としたことは、都市構造再編集中支援事業という、国土交通省の国庫補助金が活用できることや、検討状況報告会でも説明させていただいた通り、駅周辺地区に大田市が土地開発基金ですすでに所有している土地が活用できるということが大きな理由の一つです。</p> <p>また、本施設については大田市立病院との連携はもちろん大切ですが、県央保健所、あすてらす、大田警察署などとの連携も必要になることや、交通機関のことも考慮すれば駅周辺の方が利便性は高いと考えられるため、候補地を選定させていただいておりますので、ご理解の程よろしく願いたします。</p>

区分	年齢	おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設(仮称)整備 についてのご意見等(自由記載)	回答案
<p>Googleフォーム意見②</p>	<p>60代以上</p>	<p>はっきりと言って建設の意図が分かりませんでした人口減少、少子化は国にも地域にも大きな課題です また、子育て世代の支援、コミュニティーの形成と地域の担う課題は山積です その課題が案で示された大きな施設を作って解決するとは思えません その場所を作るとしたらもっと各地域に根差した、市民に密着した「場所」と「人員」が必要と思います箱物を作って解決するとは思えません、またそれに何十億もの予算をかける悪しき昭和の箱物行政、アリバイ行政の典型をみる感じです 子供に関する行政の関与はもっとデリケートで繊細な取り組みが必要です 箱物より子育て支援のシステム作りに予算と人を割くべきです箱は入りません中身を見せて下さい</p> <p>市庁舎建設には予算を除けば賛成も致し方ないですが、子育て支援施設の建設にもっと話し合いと知恵が必要です よろしくご検討お願い致します</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設（仮称）の建設についてですが、本施設は基幹子育て支援センターの整備を除けば、基本的には老朽化した既存施設の複合化と移転になります。</p> <p>建設予定地につきましても、今回建設予定のいずれの施設も、大田市の行政機能として整備が必要なものであり、現在の候補地に複合的な拠点施設としてこの時期に整備することで、都市構造再編集中支援事業という国土交通省の国庫補助金が活用できるという利点があります。</p> <p>また、隣接して建設することで、庁舎側の機能を減らし、市庁舎の面積の削減につなげ、削減した部分を支援拠点側の機能として建設することで、財源の活用が出来るため大田市負担の削減も可能となります。</p> <p>デリケートで詳細な問題への対応には、プライバシーに配慮された相談室や、お子さんを預かって保護者の方の相談ができるような仕組みが必要となります。 また、相談しやすい施設とするためには、相談者が気軽に立ち寄れる施設であることも求められます。 子育ての孤立を防ぐために、保護者同士が交流できるスペースなども考えなくてはなりません。 これらのことを実現するには、その環境を整えるハード整備も必要になると考えております。</p>
<p>Googleフォーム意見③</p>	<p>60代以上</p>	<p>新庁舎の80億円で終始し、こちらの30億円が安く感じられた魔法にかかりました。改めましてコストの見直しをお願いします。ここに来る親や子供達の未来のために。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設（仮称）の建設についてですが、本施設は基幹子育て支援センターの整備を除けば、基本的には老朽化した既存施設の複合化と移転になります。</p> <p>また、複合化することで、諸室の共同利用等により必要面積を削減することで事業費の削減を図ります。</p> <p>整備面積や構造等が庁舎とおおだ子育てにかかる総合支援拠点施設は異なるため、一概に比較することは難しいですが、庁舎側の機能を減らし面積の削減につなげ、削減した部分については財源の活用が出来るということで整備を進めていきたいと考えております。</p> <p>引き続き、建設費用の削減と財源の確保については努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p>
<p>Googleフォーム意見④</p>	<p>60代以上</p>	<p>①大田保育園、大田幼稚園の現在地は、小学校、高等学校があり学園ゾーンと言えます。教育環境としては最も望ましいと考えますが、なぜ移転が必要なのかお聞かせください。</p> <p>②子供の出生数の減少が心配されている現状において、なぜ施設(箱もの)に高額な費用を投入するのですか。それよりも子育て支援のソフト面を重視し、出生数の増加に転ずるような施策を行うべきと考えますが、所見を伺います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>おおだ子育てにかかる総合支援拠点施設（仮称）の建設についてですが、本施設は基幹子育て支援センターの整備を除けば、基本的には老朽化した既存施設の複合整備と移転になります。</p> <p>どの施設も大田市の行政機能として整備が必要なものであり、現在の候補地に複合的な拠点施設としてこの時期に整備することで都市構造再編集中支援事業という国土交通省の国庫補助金が活用できるという利点があります。</p> <p>大田保育園、大田幼稚園の移転だけを行うわけではなく、その他の施設との複合化を考えるものであり、現在の大田小学校周辺では十分な大きさの施設の敷地が確保が難しいと考えております。 大田保育園と大田幼稚園は小学校に隣接していますが、大田町内の大部分の未就学児施設は小学校から離れた場所にあり、隣接していないことで不利益が子どもに生じているとは考えられず、むしろ施設において提供される教育保育のあり方が重要だと考えております。大田市では、各未就学児施設と小学校の間において、年長から1年生までの架け橋期の連携を充実させていく取り組みを、令和3年度から実施しています。</p> <p>また、今後児童数が減少することが見込まれることから、大田保育園、大田幼稚園の統合にあたっては現在の利用定員より50%以上削減する考えです。</p> <p>子育て支援については、ハード整備と、ソフト事業のどちらも必要であると考えております。ソフト事業については、引き続ききめ細やかに取り組み、この度のハード整備と相まって、より充実した支援に繋げ、常に時代に即したサービスを提供したいと考えておりますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。</p>